

神奈川歯大・横浜市大 大学間連携協定締結記念

「市民公開シンポジウム:今なぜ必要か? 歯科と医科の連携」

平成29年9月2日(土)

- | | | |
|-------------|-----|----------------------------------------|
| 14:00 | 開会辞 | 槻木 恵一
神奈川歯科大学 副学長
歯学研究科長 環境病理学教授 |
| | 講演① | 藤内 祝
講演名『お口の病気:虫歯から口腔がんまで』 |
| 14:30 | 講演② | 井上 登美夫
講演名『放射性同位元素を用いる核医学診療の最近の動向』 |
| 15:00~15:10 | | 《 休 憩 》 |
| 15:10 | 講演③ | 米田 正人
講演名『肝臓疾患と歯周病』 |
| 15:40 | | ディスカッション |
| 15:55 | | 閉会辞 |

【モデレーター】



神奈川歯科大学附属横浜研修センター・横浜クリニック
院長 井野 智

昨年12月、神奈川歯科大学と横浜市立大学は“教育・研究・臨床活動”の交流および連携を推進し、地域社会の発展に寄与する目的で、『大学間連携協定』を締結しました。

これに先立ち2年前より、横浜市立大学付属病院から消化器内科、今年度からは耳鼻咽喉科に医師派遣していただき、1つの施設内で医科と歯科が連携し、1つのカルテで「歯周病と非アルコール性脂肪肝・糖尿病」の診療や臨床研究を着手しています。最新の研究報告でも、口の中の状況と全身疾患との関連について、決して無視できない新たな知見も示されています。

そこで今回、大学間連携協定締結記念として本シンポジウム「今なぜ必要か? 歯科と医科の連携」を開催し、一般市民の皆様へ情報提供すべく企画しました。

まずはじめ、藤内先生には口の中にできる病気について、続いて、井上先生には最新の画像診断について、最後に、米田先生には口の中と肝臓の病気の関連についてご講演いただきます。

【講演①】



横浜市立大学医学群長 口腔外科学教室・教授
神奈川歯科大学・副学長
藤内 祝

講演名 『お口の病気：虫歯から口腔がんまで』

口の中の病気といえば虫歯（う蝕）、歯槽膿漏（歯周炎）が思い浮かびますが、この二つの病気は細菌感染症（バイ菌により引き起こされる）であります。

口の中にはとても多くの細菌（天文学的数字）がいて、それがいろんな病気も引き起こしますが、その中に肺炎、肝炎、心内膜炎、糖尿病などがあり、口と離れた場所の病気にも関係していることが分かってきました。

またう蝕や歯周炎以外にも、歯や顎の骨の外傷（歯の破折や顎骨骨折）、顎の発育異常（顎変形症）などの様々な病気があり、さらに舌がんなど口の中にもがん（口腔癌）が出来ることもあります。

わが国では全体の癌患者さんが増加していますが、口腔癌患者さんも増加しており、喫煙と飲酒は口腔癌の発生源ともいわれております。

癌の早期発見、早期治療はとても重要ですが、口の中をみる機会が多いのは歯科医でもあり、歯以外の口の中もみる（見る、診る）ことも大切です。

メモ欄

【講演②】



横浜市立大学医学部 放射線医学教室
井上 登美夫

講演名 『放射性同位元素を用いる核医学診療の最近の動向』

放射線科の診療の中で放射性同位元素（Radio Isotope、RI と訳します）を用いる診療を核医学と言います。核医学には RI を患者さんに投与して、生体の中から体外に出てくるガンマ線を捉えて、生体内の機能を映像化して診断する検査と、RI から出てくるベータ線あるいはアルファ線を利用してがんの治療を行う RI 内用療法という治療の2種類の診療があります。

この10年間で急速に普及したのは生体内のブドウ糖代謝を映像化してがんの診断や治療の効果判定に用いられるFDG PETですが、最近注目されているのは認知症を早く診断できるアミロイドPETという検査法です。

一方、RI 内用療法はまだ研究段階ですが、Lu-177（ルテシウムー177）にペプチドを標識した薬剤による神経内分泌腫瘍の治療やAc-225（アクチニウムー225）というアルファ線を出す核種を用いた前立腺がん末期の治療が注目されています。これらの将来日常診療に登場しそうな核医学診療をご紹介します。

メモ欄

【 講演 ③ 】



横浜市立大学大学院医学研究科 肝胆膵消化器病学 講師
神奈川歯科大学 特任講師
米田 正人

講演名 『肝臓疾患と歯周病』

肝臓は「体に必要なものを作る（代謝）」「体に不必要なものを分解する（解毒）」「消化に必要な胆汁を作る」等を代表とし 500 以上の役割を担っている最大の臓器です。

肝臓は非常に丈夫な臓器であるため、軽微なダメージに対しほとんど身体症状を自覚することがない反面、病気が認識することなく何十年と放置してしまうことがあります。肝臓病の中でもっとも多い疾患である脂肪肝の中には非アルコール性脂肪肝炎（nonalcoholic steatohepatitis: NASH）という肝臓が徐々に悪くなる病気の場合があり、10 年間で 20% の人が肝硬変へと進行する可能性が指摘されています。

日本でも食生活の欧米化と運動不足により NASH 患者は 200 万人以上存在することが推定されています。

歯周病などの口腔疾患が他の臓器に影響を及ぼしうるという考え方は古代エジプトから提唱されておりましたが、近年の研究でその概念は確固たるものとなっております。

今回、特に肝臓と歯周病の関連についてお話しさせていただきたいと思います。

メモ欄